

平成25年度第2回練馬区立美術館運営協議会 要録

平成26年3月26日(火)
サンライフ練馬3階研修室

- 出席委員 高橋幸次副会長、伊豆井秀一委員、大橋皓也委員、
佐藤康宏委員、井出洋一郎委員、関口和雄委員、
米沢ちひろ委員、さわむら信太郎委員、松村良一委員、
中島悠子委員、安斉紀子委員、畑浩二委員、伊藤定夫委員、
宮澤歳男委員、堀井安伸委員、吾妻彰委員
- 欠席委員 粟津則雄会長、青木茂委員、松本透委員、
- 区職員 中村地域文化部長、小金井文化・生涯学習課長
若林館長、中野副館長、内田次席、小野学芸補助員、
真子学芸補助員、加藤学芸補助員、喜多学芸補助員

館長：皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。只今から、平成25年度第2回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。

私は、美術館長の若林と申します。よろしく願いいたします。
先ず、中村地域文化部長よりご挨拶を申し上げます。

部長：本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
また、本日の会場はリニューアルオープンをさせていただいたサンライフ練馬というお隣の施設でございまして、どうぞ皆様にもこの施設も見ていただければと思います。

本日の議題でございますけれども、来年度の事業計画につきまして皆様方に諮り、ご指摘いただければと思っております。

美術館では、ただ今開催中の野口哲哉展が人気を呼んでおり、テレビや新聞でも取り上げていただき、大変盛況で嬉しい悲鳴を上げているところでもあります。これは美術館の新しい試みとして、どこまでが美術かということも含めいろんなことを感じる展示となっておりますので、まだの方は是非足を運んでいただきたいと思っております。

また今年、漫画家ちばてつやさんの『あしたのジョー』とその時代をテーマとして、これもどこまでが美術と呼べるかというところはあり

ますが、新しい試みとしてこの夏開きたいと考えておりますので、楽しみにしていただきたいと思います。

また前回もお話ししましたが、来年の春、美術の森緑地としまして、動物の彫刻などを置いた形の、美術館と一体となった今までに無い公園として、装いを新たに開園する予定でございます。来年の今頃の完成を予定していますが、皆様に親しんでいただける場となりますよう、この場で様々なご意見を頂戴できればとお願い申しまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

館長：次に、本日出席をしております区の職員を紹介させていただきます。地域文化部・中村部長、文化・生涯学習課・小金井課長でございます。引き続きまして、美術館職員を紹介させていただきます。

<職員紹介>

館長：以後の協議会の進行は会長にお願いするところですが、本日粟津会長より欠席との連絡がありましたので、高橋副会長、進行をよろしくお願いいたします。

副会長：代わりに議事進行を務めさせていただきます。それでは、議事に入る前に、本日の委員の出席状況について、事務局から報告してください。

館長：現在委員19名中、16名の出席でございます。本日も欠席は粟津委員長、青木委員、松本委員の3名であります。なお、松本委員から委任状をお預かりしています。運営協議会条例第7条により、本協議会は成立いたしました。以上ご報告いたします。なお、本日の会議の傍聴希望はございません。

副会長：ありがとうございます。では初めに、本日の議事進行についてお諮りいたします。議題の2から順次事務局より説明を受け、その後議題ごとに質問等お受けしたいと思っております。

課長：議事に入る前に、一件ご報告したいことがございます。前回8月に第1回協議会を開催した際、委員から南田中の観蔵院・曼荼羅美術館の情報をお寄せいただきました。その後、館長が館にコンタクトいたしましたので、ご報告申し上げたいと思っております。

館長：ご報告申し上げます。訪問し、ご住職にご挨拶申し上げました。その後、館長である令夫人のご案内で、懇切丁寧な解説をしていただきました。

した。金剛界・胎蔵界曼荼羅の大変な大作・労作がございました。染川英輔画伯が18年の歳月をかけて完成させた、縦2m30cm横2mの、お寺のご本尊でもあるこの曼荼羅を中心として、その他多様な曼荼羅を集めた、仏画で構成されている美術館でありました。それ以外に、館長が収集したネパールの仏画・民俗画、インドの細密画などのコレクションで構成されておりました。基本的に仏画が中心ですので、すぐに当館と何かできるという訳ではありませんが、その存在とクオリティは十分に認識して参りました。今後に向けて大いに検討していきたいと考えております。今後美術館で何かをするときには、喜んで作品をお貸ししますとのお言葉まで頂戴して参りました。以上、簡単でありますがお報告いたします。

副会長：それでは、式次第2、平成26年度の事業運営計画に基づいて、ご説明いただきたいと思っております。

<「平成26年度事業計画」について説明・・・館長、学芸員>

<「平成26年度教育普及事業計画」について説明・・・館長>

副会長：平成26年度の事業計画について、ご質問等があればお願いいたします。

委員：コレクション展についてお聞きします。時代的な背景を絡めてということで非常に面白いと思うのですが、練馬区では多くの絵画グループが活動している中で、抽象画というものがどうもわからないので勉強させてくれる企画を美術館にやってほしい、という声が届いています。例えば「抽象画の世界のコレクション展」「写実画のコレクション展」「幻想世界のコレクション展」といった、一つのテーマをもったコレクション展を催すのはいかがでしょうか。

館長：練馬区立美術館には現在、3,200点ほどのコレクションがございます。せっかくこれだけのコレクションがありながら、皆様に見ていただけないのは勿体ない上、運営者の責任とも考えております。今回は4回シリーズでコレクション展をやろうと企画し、今展はその2回目であります。このシリーズが終わりましたら、ご提案いただいたようなジャンル毎の展覧会企画を、一つの課題として考えられると思います。いかがでしょうか。

委員：今後の企画として、そういうことが考えられると面白いかなと思ひ、

提案させていただきました。

館長：ご提案をいただきありがとうございました。大いに検討させていただきます。

委員：教育普及事業についてお伺いします。この冬も小学校展・中学校展が開催されましたが、せっかく「渡辺千尋・復刻の聖母」展の開催期間中であつたにもかかわらず、美術館と学校双方の間で交流が見られなかったようなのが気になりました。それひとつすればいいというのではなくて、美術館と学校の方で、次年度には何か取り組みをされる予定があるのか、伺いたいと思いお聞きしました。

館長：学校展に合わせて、ということでしょうか。

委員：学校展に合わせても合わせなくても構わないのですが、何か今までとは違った取り組みが為されるのか、お聞きしたいと思いました。

学芸員：具体的に学校との間で、新しい取り組みということは予定しておりません。ただ、渡辺千尋展の時に近隣の練三小の児童にお越しただいて、版画の実技を一緒にやるなどのことはありましたので、そういった機会を増やしていければと思っております。

課長：私の方から考え方も含めて、ご説明させていただきたいと思います。前回・前々回もこの協議会で、学校との連携をというご意見をいただき、改善に取り組んで参りました。この後の議題にもございますが、25年度の状況ということでは学校との見学や関わりについて、前回に比べたくさんの連携事業モデルが入っております。現在のスクールプログラムを生かして、学校の教育研究部会等の方ともより密にコンタクトを取ってこの結果となっておりますので、当面この内容を充実させていきたいと考えております。

委員：ありがとうございます。提案なのですが、例えば学童保育の方に資料提供していくなどのアプローチはいかがでしょうか？

館長：いろいろ新しい提案をいただきながら、検討していきたいと思っております。

委員：あしたのジョー展についてお尋ねします。初めての練馬区立美術館でのアニメの展示ということで、アニメのまちねりまを発信していく上でも、非常に意味のある企画だと思っております。私自身、1967

年から73年に学生時代を送った団塊の世代でありまして、大学は全て学生運動の真只中という中で、様々な芸術の試みや思想の運動も含めた大変な嵐のような時代であったと思います。

これを「あしたのジョーの時代」として、時代の空気を共有した芸術文化の動きを辿る、ということがここにも記載されている訳ですが、日本の中でも圧倒的に人口の多い団塊の世代が、あしたのジョーを見ながら過ごしたその時代、その雰囲気や空気・熱情のようなものをどう表現していかれるのか、注目したいところです。この点についてどのようなお考えがあるのか、お伺いしたいと思います。

館長：私もまさに同じ世代ですが、ちょうどこの時代は社会が混沌とした、しかしエネルギーの溢れた時代ではなかったかと思います。学生運動、大阪万博、三島由紀夫の割腹自殺、あるいはフォークソングの全盛期、あらゆるカルチャー・サブカルチャーが芽を出して、やがて花開いて行く素地を作った時代ではないかと思っております。一体あの時代とは何だったのかという検証を、総合文化的にやってみたいという、新しい試みの展覧会であります。

よってジャンルも、当然ながらちばてつやさんの原画やアニメがあり、それを起点にしながら、その時代に流行った広告、流れた音楽、寺山修司さんがプロデュースした力石徹の葬儀の様子の再現は天井桟敷を中心とする寺山修司さんの活躍とその周囲に集った人々、横尾忠則さん、宇野亜喜良さん、林静一さん、栗津潔さんたちの芝居のポスターですとか、もろもろの展示をしてみたいと考えております。

また、全く同時代の空気を感じつつ生き抜いて、現在成功しているアーティスト、デザイナー、イラストレーターたちに、あしたのジョーをテーマとしたオマージュ作品を作ってもらうことも企画しております。あの時代とは一体何だったのか、今生きている我々にどのような提言をしたのか、という検証をしてみたいと思っております。まとまりの無い展覧会になるかもしれませんが、そういうチャレンジの展覧会であるをご理解いただければと思います。

副会長：歴史検証に入ったかなという感がありますが、団塊の世代、余り老け込まずに参りましょう。

ほかに、いかがでしょうか。

委員：あしたのジョー展では、ニュース映像を流したりするのでしょうか。

館長：ニュース映像は探したのですが、残念ながら権利関係などが複雑で、ニュース映像とまではいきません。ですが、その時代のカメラマンが

撮った代表的な写真や知る人ぞ知る写真を、発掘して展覧したいと考えております。

委員：おそらくアニメーションや実写版を、映像として流すのだらうと思うのですが、同時代の社会を写したフィルムがあるといいなと思いました。東京都現代美術館で「実験場」という展覧会をしましたが、砂川闘争の記録映像を流してなかなか面白かったのです。現代からは彼方となった時代のことですので、映像があれば理解の助けになるかと思いました。

館長：検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

委員：今、あしたのジョーの話が出ましたので提案なのですが、ちょうど7月から9月までは夏休みに当たります。私の中学校の美術部も盛んに活動していますが、生徒たちはやはりアニメに関しては非常に興味を持っております。できれば生徒たちが夏休みにこの展覧会に来ることができるよう、この案内を早めに各学校に配布させていただきたいと思います。

館長：既にお配りしたスクールプログラム2014の中に、年間の展覧会案内が入っており、その中にあしたのジョー展の紹介もさせていただいております。また、今大変ありがたいお話をいただきましたので、できるだけ早く同展のチラシを作成し、でき次第お届けさせていただきたいと思います。その段階で、具体的にどのように、美術館にお越しただけのようなプログラムを展開できるか、検討させていただきたいと思います。

委員：私の息子は大泉中学校の卒業生なのですが、在学中にアニメを作って学芸会で発表したのが非常に評判になり、今も残っております。展覧会を見に行くだけでなく、中学校でアニメを作るくらいのものでないかと思うのですが、今回は間に合うかわかりませんが、将来の構想としていかがでしょうか。

課長：区では、アニメ全体で産業振興も含めて取り組んでおりますので、お答えさせていただきます。現在区内のアニメの会社の協力を得ながら、中学校と連携したアニメの制作プロジェクトとして、各中学校と連携事業を開催しております。そういうことも併せて、今ご提案いただいたようなことも念頭に置きながら、区として事業展開していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員：いつも拝見しているのですが、素晴らしいエントリーの展覧会ばかりで、府中美術館としてはまたやられたな、という忸怩たる思いがございいます。あしたのジョーは、当館でもいつかやりたいという思いがあるのですが、ちょうど榎図かずおさんが話題になっていた武蔵野市ですが、こういった漫画の展覧会の時、プロダクションとの関わりが公立の美術館としては難しいですね。あまりプロダクションの意向が強いと、展示作品を選ぶにしても、こういった時代との関わりを求めるにしても、榎図さんの場合ちょっと難しいところがありましたので、その辺りを少し気を付けておやりになったら良いと思います。もう一点、シェイクスピアの方ですが、出品作品はイギリスの方から持って来られるのですか？

学芸員：皮革装丁本については、イギリスでコンペティションがあったもので、7ヶ国回った後に日本に入ってまいります。それ以外のもの、シャガールの版画などは国内で借用する予定でございます。皮革装丁本はコンペのものだけがイギリスからで、絵画作品等挿絵本は全て国内からになります。

委員：大学でも、明星大学などはたくさん持っておりますね。

学芸員：明星大学さんからも「ファースト・フォリオ」などをお借りする予定です。

委員：河村錠一郎先生を講師としてお招きするとのことですが、河村先生も沢山お持ちでいらっしゃいますね。

学芸員：実は河村先生からもお借りすることになっています。ウォルター・クレインなども、良い状態のものをお持ちでございます。

委員：講演会にお呼びするのはそういう作戦かと思いました。

学芸員：その通りでございます。

委員：大変良い人選だと思いますので、フル活用していただきたいと思います。

学芸員：ありがとうございます。

副会長：ほかに何かございますか。

特に無いようですので、次に式次第3、平成25年度の事業中間報告について、館長からお願いします。

館長：それでは、平成25年度の事業中間報告を申し上げます。

<平成25年度開催展覧会についての説明・・・館長・学芸員>

<平成25年度教育普及事業について説明・・・学芸員・館長>

<平成25年度博物館実習について説明・・・学芸員>

委員：博物館実習の男女比はわかりますか。

学芸員：この年度については、全員女子でした。昨年度は同じ人数で男子が2名でした。

<平成25年度ぐるっとパス利用状況についての説明・・・館長>

館長：以上、平成25年度の事業報告をさせていただきました。

副会長：何か質問等がございますか。

委員：スクールプログラムの参加校ですが、小学校中学校の割合はわかりますか。

学芸員：内容によっても変わりますが、団体鑑賞としては小学校が2校、中学校が2校、高校が2校、大学が1校、施設見学では大学が3校、職場体験・職場訪問は全て中学校、出張プログラムに関しては小学校と中学校と児童館が2校ずつです。職場体験以外は、さほど差が無い現状でございます。

委員：先程も申しましたが、区立美術館を教育の場として小学校・中学校の子供たちに開放するというのをやっていただきたいです。校外に出る社会科見学などの活動や、中学校や高校の美術部の活動の場として、大いに宣伝していただきたいと思います。また中学までは観覧料が無料というメリットも、もう少ししっかりとアプローチしていただきたいです。美術館の教材としての位置づけを推進していただきたいと、要望を申し上げさせていただきます。

もう一点、これは練馬区の方への要望になりますが、生徒が商店街に行ってお店のフラッグと一緒に作成するという取り組みですが、是非最寄りの商店街だけでなく、区内のほかの商店街にも広めていただき

たいです。子供たちと地域とを美術館が結びつけるという非常に面白い取り組みですので、少し離れた他の商店街へも広げられないか、模索をしていただきたいと思います。

課長：いろいろご意見をいただきました。学校教育の中で、美術の单元の中で美術館を利用した授業の方が教育効果が上がるというのが、学校側にとっての第一の利点であります。美術館側としては、来ていただき美術に親しんでいただくことで、生涯学習という観点から子供たちへの博物館教育という意味がございます。学校の研究会等へ学芸員が訪問し、情報交換させていただくところから始まり、その結果として25年度については、私立中学だけでなく区立の小学校にも少し広がりを見せているところであります。引き続き、しっかり情報公開し協力しながら、お互いの目標を達成していくよう模索していきたいと思えます。

フラッグづくりにつきましても、美術館はこの地域の文化的イメージの核となりたいということを考えておりますので、引き続き中村橋の商店街と連携しながら、町の誇りとなる素晴らしい施設となるよう努力していくということが一点ございます。一方で、今言ったようなことを大切にしながら、フラッグ作りだけでなく、ほかの授業でも商店街との連携はありますので、美術館として協力できることがあれば拡大していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員：美術館も人数が多くない中でこれだけよくやっているな、と敬服いたしております。

委員：ひとつ、参考に申し上げます。今回は作成したポスターを、学校の周りにある地区区民館などの分も各校に委ねて配布したところ、そういった施設にもポスターを貼ることができました。これまでは単純に学校に送付していたところ、それは区民館に配られることなく校内に掲示されて、内部の人間しか見ないという結果となっていたということです。今回はそういった努力もあって、地域の方への周知に繋がり、120%という数字になって表れたと考えております。そういう努力も、各小中学校で必要かと思うところです。

副会長：ほかに何かございますか。

無ければ、平成25年度の事業中間報告については以上とさせていただきます。

それでは、議題5の美術の森緑地計画案について、ご説明をお願いします。

< 美術の森緑地計画案について説明・・・課長 >

副会長：ありがとうございました。

美術の森緑地計画案について何かございますか。

委員：彫刻作品のイメージ、こちらはオリジナルですか。

館長：全てオリジナルです。資料はあくまでイメージでして、例えば猫は美術家協会の島田先生の彫刻など、オリジナルの作品となります。

委員：以前にもこの美運協の中で申し上げましたが、先程のお話では、着工が夏過ぎということでしょうか。

課長：工事がまだ設計の詳細を検討しているという段階ですので、それが決まりましたら、工程も含め報告をしながら確定していきたいと思いません。概ね、工事に入るのは夏過ぎになるかと想定しております。

委員：美術館とサンライフのあるこの広場は、子供から高齢者まで利用者が非常に多いので、いつ頃から工事をしますよというお知らせを早めにやって頂きたいのと、美術館への導線を一本大きく設けるといことですので、工事期間中は来館者の方々にわかるよう、周知に力を入れていただきたいと思いません。ご説明を伺いますと、行ってみたいと思ような楽しい企画展が予定されていますので、それが工事で妨げられることなく、通常通りまたはそれ以上の来館者を呼び込めるような、工事の配慮をしていただけると良いと思いません。

課長：ありがとうございます。計画平面図の設計案ですが、今後工事の工程表を作成します。それが固まりましたら議会にも報告し、その中で利用者の方にも周知していきたいと思いません。また、美術館とサンライフの入り口ともなっておりますので、工事の詳細を決めながら、ご利用の方にもわくわくする楽しみを持っていただけるよう、例えば看板を工夫するなど、周知の徹底に努めて参ります。

議長：ほかに何かございますか。

無ければ、本日の議事については以上とさせていただきます。

その他、何かございますか。

館長：本日は特にございません。

議 長：ほかに質問等ございませんか。事務局の方はいかがでしょうか。

館 長：封筒に野口哲哉展と、次回の松林桂月展のチケットを封入してございます。まだ野口哲哉展をご覧になっていない方は、この機に是非ご覧いただければと思います。それから、美術館からの報告ですが、これまでお世話になっていた中野副館長が今月末をもって定年退職となります。また、次席の内田が4月1日付けで異動となります。2人から一言ずつお願いします。

副館長：2年間という短い期間でしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

次 席：2年間、美術館という、普通の事務職ではなかなか味わえない、貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

議 長：それでは、以上で本日の運営協議会は終了といたします。
次の開催は7月もしくは8月となる予定です。
本日は長い時間、ありがとうございました。